

勿凝学問 258

ミスター年金って誰のことだ？

昨日の国会での代表質問をみていて思った疑問

2009年10月29日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

文章を書く切っ掛けなんて、他愛のないもので、今日は、ノルウェーに留学している学生が、ゼミの掲示板に書いた、次の言葉かな。

先生が御隠居生活に入られてからか、心なしか、最近のコルナカレにブラックジョークが散見するようにみえ、ウケています（笑）。参考になり笑えるという、まさに一石二鳥（？）なのかなという感じです！

人がまじめに文章を書いているのに、ウケてるのか？(T_T)トホッ

まいったもんだ——じゃあ、次のまじめな文章で、勉強にのみ役だったとうならせてあげよう。。。

新政権の下では、各省の大臣、副大臣、政務官の三役が、「マニフェストに書いたんだから仕方ないんです。それをなんとかするのが皆さんの仕事でしょう」と官僚に指示を出す、政治主導の立派な政治が展開されているらしい。

まあ、政治主導の政治の在り方を官僚に考えてもらっているというマンガのようなできごとが、多くの省では起こっているみたいだな。。。

でっ、こんなの？

行政刷新会議が最初にやることは、民主党のマニフェストの仕分けらしい。

ところで今日、国会中継を流していたら、聞こえてくる声が思わずおもしろかったので観てしまった。おもしろかった代表質問のなかで、ちょっとひっかかったのは西村康稔氏が、厚労大臣に向かって言った次の言葉かな・・・

年金以外の、医療福祉のことが分からないということであれば、いつでも代わって差し上げますよ。

う〜んっ、良いセンいつているんだけど、これは、今の厚労大臣が年金のことを知っているという前提の上での言葉だよね。でも、僕は、厚労大臣がまともな年金論を言っているシーンを観たことがないだよなあ。年金記録の話をしていることは記憶があるけど、年金の制度論で、間違えていないことを言ったことってあったっけ？

先日、年金にも詳しい新聞記者をはじめとした知人たちと飲んでいると、誰かが、「ミスター年金というのは止めようよ。せめて、ミスター年金記録と呼んだほうがいいんじゃないか」と言うと、そこにいた全員が、「そりゃ、そうだよな。彼が、ちゃんとした年金制度論を話しているのを聞いたことないよなあ」と。

でも、彼が大臣になる前から、「8.5 億件の紙台帳とオンラインデータを突き合わせる」と言っているのを聞いたりすると、この人をミスター年金記録と呼ぶのも、ミスタージャイアンツたる長嶋さんには大変申し訳ないという気はしていたんだけどね。

それで、今週、丁度良い記事が、『週刊東洋経済』の中に出ていたので、それを紹介して、本日はおとなしくしておこうと思う。

三木雄信「厚生労働大臣 長妻昭様 データの照合だけでは記録問題は解決しませぬ」『週刊東洋経済』2009年10月31日号

三木雄信「実は単なる「大企業病」 内側から見た社保庁の実態——「最後の1人まで」で記録確認作業はパンク。助けを求められた業務改善のプロは、内情をどう見たか」『週刊東洋経済』2009年10月31日号

これらを読んでもらえれば、ミスター年金記録ってのは三木氏のような人をいうのであって・・・となると、今の厚労大臣はミスター何なんだ？

西村康稔氏が今日も言っていたように、やっぱり、ミスター検討中ってのが、一番妥当なんだろうかねえ(@_@)

それと、昨日の代表質問では、首相から「マニフェスト達成できなければ責任取る」という言質をとったことと、与党に野党の方から超党派で社会保障問題を検討しようと呼び掛けたことは、意味があったね。民主党が野党にいるとき、何度呼び掛けても民主党は、一緒に協議するとボロがでるから拒否——おっと、一度だけ参加したことがあって、それはそれは日本の政治の喜劇が記録されたおもしろい議事録を残しているんだった。

社会保障をとりまく政治に関心のある人にとっては、必読の議事録だから、よろしく暇をみつけて読んでおくように。これを知らない年金論者なんて、モグリだ。

- [「年金制度をはじめとする社会保障制度改革に関する両院合同会議の会議録議事情報一覧」](#)

この合同会議に関する僕の文章。勿凝学問 32 は、予測を間違えてしまい、大変、おもしろいものになってしまったわけだけど…。

勿凝学問 32 [年金改革と民主主義——両院合同会議はつまらない](#)

勿凝学問 29 [三党合意は古証文——民主党マニフェストも4月15日に古証文になるはず？「政策技術学としての経済学を求めて——分配、再分配問題を扱う研究者が見てきた世界」](#)

『at プラス』 2009年8月号